

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		商店街（代表者）	来客数の動き	・7月に入り、区域内の駐車場を利用する他県ナンバーの車両が増加している。また、学生が夏休みに入ったことで家族とみられるグループでの旅行者が目立つようになっている。駐輪場の状況から、平日の火曜、水曜を除いて郊外からの若年層の来街も増加している。遊興施設の利用や、飲食物、夏物衣料の購入などで売上を伸ばした店舗が多い。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・以前と比較して、来客数の前年比が回復している。それに連動して、夏型商材の販売量も前年から上向いている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・27日からの猛暑の影響で夏物家電がよく売れている。エアコン、扇風機、除湿器、冷蔵庫などは前年を上回る売上となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・7月下旬から夏休みに入ったことで、家族連れや団体客が目立つようになり、ゴールデンウィーク以来のにぎやかさとなっている。ランチは客の回転率が上がっており、特にクルーズ客船が入港する日は常に満席状態である。ディナーはコース料理での注文が多く、客単価が上がっている。総体売上は前年から33%の増加となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・値下げを行っていなくても前年と同様の売上となっていることから、景気はやや良い。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・若干ではあるが、客の来店周期及び客単価が上向いている。その結果、売上は前年から3%程度の増加となっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・日常的に商店街の来街者が減っており、特に日曜日の入込が良くない。店舗の来客数も減っており、客数確保に厳しさがあがる。販促費は掛かるが、集客に力を入れなければならない状況となっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は大きな災害もないことから、順調に推移している。ただ、大きな増減もなく、例年並みでの推移となっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比98.4%、一昨年比107.7%であった。外国人観光客による売上は約20%を占めている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・イベントや催事などでの売上は堅調であるが、飲食店などの取引先における売上が非常に厳しくなっている。1回当たりの注文の量も少なくなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・消費税増税まであと2か月ほどになっているが、2014年の前回増税時と違い、駆け込み需要の兆しがいまだにみられない。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・道内消費は依然として外国人観光客に支えられており、来道者数に影響される状況が続いている。夏物クリアランスは気温が余り高くなかったこともあり、期待したほどの盛り上がりを見せることなく終息した。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・7月に入り気温の低い日が続いていたこと、参議院選挙があったことなどから、来客数が大きく前年を下回っている。客の購買意欲も低下しており、不必要な商材を節約する傾向は変わらない。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・前年と比較して、7月の日曜日が1日少なかったため、来客数及び客単価が前年比で約2%低下している。ただし、曜日別の状況を見ると、ここ数か月と比べても大きな変化はみられない。7月の曜日別の売上は前年比で0.5～1%程度のマイナスが見込まれる。
	スーパー（役員）	それ以外	・様々なキャッシュレス決済が出てきている中、多数のキャンペーンを行っているが、どれも盛り上がりには欠けている。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きはほとんど変わっていない。ただ、天候が不安定なことも影響しているため、天候条件が良くなれば、客足が戻ってくる可能性もある。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は、前月、前々月と余り変わらない。これから当社の決算期が終わり、冬に近づくにつれて、販売台数は減ってくるとみられる。	
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・来客数が前年並みで推移している。	

自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・新車、中古車共に、消費税増税前の駆け込み需要の動きが6月にみられたものの、7月に入ってからは前年と変わらない動きとなっている。
その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・当店のメイン顧客は高齢者であるため、猛暑がこたえているようだ。北海道の人は暑さに弱いため、なおさらである。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定しているため、販売量は堅調に推移している。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・7月の売上は前年並みとなった。前月はイベントが重なったことで好調だったが、7月に入って、えぞ梅雨のような天候の日が続いたことから、客足が遠のいたようである。特にランチでの影響が大きかった。夕食は参議院選挙やピヤガーデンなどの影響もあり、前年を下回った。外国人観光客は特定の店や地区などに集まっているようだが、観光客数自体はやや減ってきている。
スナック（経営者）	来客数の動き	・参議院選挙の影響は余りなかったが、客の出足が悪かった。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・観光やビジネスでの客の動きは相変わらず好調を維持している。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数が伸びてこない。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・夏休み旅行の需要がそれほど多くなかった。客から景気が上向いているとの話も聞こえてこない。
タクシー運転手	来客数の動き	・7月のタクシーの売上は、前年と比べて日勤で3%、夜勤で4%ほど良かったが、乗務員不足で稼働率が落ちているため、会社の売上は前年から6%の減少と大きなマイナスとなった。
タクシー運転手	来客数の動き	・ここ3か月間の実績をみると、イベント関係でのオーダーは例年どおりであったが、国内旅行者や外国人観光客による利用はマイナスであった。ホテルのコンシェルジュ関係からのオーダーが入ったことで売上は悪くなかったが、景気は3か月前と変わっていない。
タクシー運転手	販売量の動き	・ドライバー不足に加えて、参議院選挙による外出自粛ムードがみられたことで、販売量が落ち込んでいる。今後についても、地域イベントなどでの人出は見込めるものの、景気が上向くところまでは期待できない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・売上は3か月前とほぼ変わらない。前年と比べても、ほぼ変わっていない。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅も自動車も今のところ、消費税増税前の駆け込み需要がみられない。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・参議院選挙が終わり、政治や経済の方向性に大きな変化もなかったことから、予定どおり消費税増税が行われるとみられるが、客の多くは買い急いでおらず、大きな駆け込み需要も発生していない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、消費税増税を段々と身近なこととして感じており、生活防衛に走っている。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・さっぱり消費が上向いてこない。そうしたことが来客数にも表れている。客の財布のひもはかなり固く、晴れの日の消費はまずまずだが、ふだんのスーパーでの買物はとても慎重である。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候不順の影響により、漁業などの1次産業の動きが鈍く、当店の売上にも影響が出ている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数、買上点数共に前年割れしている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・天候不順の影響で売り時である夏物の稼働が非常に落ち込んでいる。クールビズ関連でスーツの需要がみられたが、全体では落ち込み幅が大きい。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・全国や全道との地域格差が大きく、受注量が下降気味である。全体的に回復の兆しがみられない状況にある。
乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・消費税増税前の駆け込み需要がみられない。

	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・販売部門における来客数が減少している。	
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・海外の大手航空会社のストライキ、参議院選挙、民泊の台頭などがマイナス要因であった。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・今年の夏場は、例年実施されているスポーツ合宿が縮小されたこともあり、旅行客の動きが鈍い。7～8月にかけての需要が低下していることで、航空機の機材を中型から小型に変更する動きなども散見される。	
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・客の購買意欲が低い。買い控えをしているようである。	
	タクシー運転手	単価の動き	・参議院選挙の期間中は夜の会合などが控えられ、客の利用頻度が低下した。また、選挙結果を受けて、10月からの消費税増税が予定どおり行われる可能性が深まったことで、より一層消費が冷え込んでいる。	
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・例年、秋の新商材発売を控えて、買い控えの発生する時期であるが、今年は秋から通信事業者が新規参入する影響なのか、例年よりも買い控えの度合いが大きくなっている。	
	観光名所(従業員)	来客数の動き	・7月26日現在の利用乗降客数は前年比83.8%となっている。天候不良による来客数の減少に加えて、台湾における航空会社のストライキによる入込減が重なったことが大きな要因となっている。	
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィークの反動が継続しており、前年と比較して利用客が減少傾向にある。	
	×	商店街(代表者)	販売量の動き	・果実の端境期に当たる中、雨不足により青果物が高騰していることから、景気は悪くなっている。
	×	一般小売店[土産](経営者)	来客数の動き	・7月は参議院選挙の影響で、人の移動が余り活発でなかったことから、国内線の利用客が若干減少している。また、国際線においては、日韓関係の影響により韓国入客が減少している。これらのことが7月の売上に影響しており、売上は前年から10～15%ほど落ち込んでいる。
	×	百貨店(営業販売担当)	販売量の動き	・来客数の減少幅以上に買上客数が減少している。特に衣料品のクリアランスが不振である。
	×	スーパー(店長)	来客数の動き	・曜日並びや天候の影響もあるが、当地域では競合店も含めて売上や来客数が悪化している。
	×	観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・国内客、外国人観光客、団体客、個人客の全てで集客が悪化している。天候不順の影響もあり、本州方面からの集客に苦戦しているほか、外交問題の影響により韓国からの集客が大幅に減少している。今夏は最悪の景況感となっている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・前年比での落ち込み幅が、今年に入り拡大している。タクシーにとっては消費税増税前の駆け込み需要は無縁であり、客のタクシー利用に対するマインドが後退している。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・7月は参議院選挙があったことで、街中の景気も悪化しており、人の動きもみられない。また、観光客の入込も前年と比べて少なくなっている。これからもまだまだ厳しい状況が続く。
企業 動向 関連	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・7月の販売量は前年比プラス4%であったが、3か月前の4月の販売量は前年比マイナス7%であったため、景気は良くなっている。	
(北海道)	建設業(従業員)	取引先の様子	・建築工事量が豊富なことから、景気は良くなっている。ただし、地方も含めて、目標利益率確保に向けて設定した予算に見合わない公共工事が多くなっている。	
	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・新年度がスタートした4月から、現場配置はフル稼働状態が続いている。また、天候がこれまで比較的安定して推移していることから、各工事は順調に進捗しており、出来高は計画を上回るペースで推移している。	
	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・ユーザー層における設備投資サイクルの影響もあり、受注量が増加している。	

	金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は10連休の反動減から持ち直しの動きがみられる。観光関連も引き続き堅調に推移しており、公共投資も増加している。住宅投資や生産、輸出入は弱含みが続いているものの、道内景気は3か月前に比べてやや良くなっている。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の売上は前年並みで推移している。観光も順調に推移しているようだが、韓国問題により予断を許さない状況にある。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ベース商材において安定した売上確保が続いている。人手不足対策などで大型案件が伸びていることがプラス要因となっている。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピック関連での需要や観光関連の投資が活況である。また、消費税増税前の駆け込み需要も顕在化しつつある。	
	司法書士	取引先の様子	・取引先の様子から、不動産取引や建物の建築が例年よりも少ない状況がうかがえる。高齢化や景気の落ち込みが主な要因とみられる。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先において、新規の設備投資をかなり抑えている様子が見える。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・設備投資意欲が鈍く、新規案件の引き合いが少ない。	
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州の気温がなかなか上がらなかったため、容器類などの飲料関連の動きが鈍く、トレーラー全体の回転率が悪くなっている。また、北海道から送り出す生乳の出荷量も下方調整となっている。	
	司法書士	取引先の様子	・参議院選挙後は、韓国とのあつれきなどが問題となっていること、消費税増税が間近になってきていることなどから、先行きに対する不安感が強まっており、不動産取引などの大型消費に停滞感が生じている。	
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・非常に荷動きが悪く、前年と比べて2割近い落ち込みがみられる。
雇用 関連 (北海道)	-	-	-	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・観光シーズンの到来を受けて、ホテルや飲食店などのサービス業関連の業績が好調である。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人が堅調に増えている。業績に直結しているかは別にして、企業活動が活発なことがうかがえる。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・求人広告件数は横ばい又は微減となっているものの、人手不足が続いていることから、採用決定率が高止まりで推移している。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・日韓問題で今後影響が出てくる可能性もあるが、今のところ観光客は増加傾向にある。そのため、宿泊業や飲食業の求人も堅調である。医療・介護業界も堅調に推移している。一方、娯楽業は前年と比べてかなりのマイナス傾向がみられる。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・求人数に大きな変化はないが、雇用形態を問わず若干下げ止まりの動きがみられる。ただ、周辺企業からは、大型連休となったゴールデンウィークの反動による集客減、米中摩擦や消費税増税の影響など、先行きに不安を感じる要素が多いとの声が聞かれる。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・現在ブームのタピオカドリンク店、中規模の複合商業施設、全国チェーン店などの新規開店、地元空港の国際線ターミナル増設といった明るい話題がみられる一方で、早々に当に見切りをつけて、新規出店から僅か2年で撤退した全国大手ドラッグストアチェーンもみられる。建物などの解体業者も元気だが、解体後の土地は駐車場になるケースが大半である。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月の有効求人倍率は1.06倍と前年を0.04ポイント上回り、9年4か月連続で前年を上回った。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数が4か月連続で減少したことで、有効求職者数は5か月ぶりに前年を僅かに下回った。一方、新規求人数が6か月連続で増加したことで、有効求人数は5か月連続で増加した。この結果、有効求人倍率は1.04倍となった。新規求人の6割は更新求人であり、求人条件などに大きな差異がないことから、応募件数が減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月の有効求人倍率は1.06倍であり、前年比で同率となったが、引き続き高い水準で推移している。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・企業の採用担当者から聞く限り、新卒採用枠は前年程度とのことだが、東京オリンピック以降の経済活動に不安があるようで、できれば契約社員と併用で新卒採用を進めていきたいという本音がうかがえる。10月の消費税増税後における消費者の動きも不透明であり、しばらくは横ばいが続く。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・小規模だが、事業所閉鎖の動きがみられる。
x	-	-	-